さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1

富士山吉田口下山道の避難用シェルター2基が完工しました。計画では、全部で何基整備しますか。

.....

問2

どのような事態に備えて設置したのですか。

.....

.....

問3

シェルター2基の工事費と、その財源を答えてください。

・工事費：約.....円

・財　源：.....

.....

問4

今夏、吉田口登山道から通行料を支払い、富士登山した人は、何人でしたか。

約.....人

富士山シェルター完工

下山道 県、噴火備えまず２基

山梨県が進めていた、富士山吉田口下山道の避難用シェルター2基の新設工事が18日までに完了した。突発的な噴火による噴石や落雷から登山者を守るため、2025年度から31年度までに全13基のシェルターを整備する計画で、設置は今回が初めて。財源には登山者から徴収した通行料を活用した。

県富士山観光振興グループによると、シェルターは吉田口下山道7合目付近と8合目付近の2カ所に新設した。高さ2㍍、幅2・5㍍、奥行き5・4㍍の鉄筋コンクリート製で、1基につき最大135人が避難できる。出入り口となる1面が開放されていて、緊急時は出入りがしやすいように扉はない。景観に配慮し、下山道の尾根部分の斜面にはめ込んで敷設した。閉山後の9月中旬から工事に着手し、今月15日に完了した。

工事費は1基あたり約3800万円で、財源には昨夏から導入した登山規制の通行料収入を充てる。今夏は通行料を2千円から4千円に引き上げ、吉田口登山道で約5億9138万円（前年同期比98・5％増）を徴収していた。

これまでは下山道の8～6合目で緊急避難できる場所は7合目の緊急避難小屋1カ所と洞門3カ所にとどまっていた。突発的な噴火が起きた場合は噴石から身を守る場所が少なく、緊急避難場所の確保が課題だった。

県は31年度まで年間2基ずつ設置する。同グループの三枝徹富士山観光振興監は「安全な登山ができるように今後も万全を期して必要な対応をしていきたい」と話した。

〈宮川祐人〉

富士山吉田口下山道8合目付近に新設したシェルター（県提供）

（2025年12月19日付 山梨日日新聞1面）

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.